

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792500098		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホームあゆむ		
所在地	大阪府池田市室町7番7号		
自己評価作成日	平成27年4月21日	評価結果市町村受理日	平成27年10月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792500098-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2792500098-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年7月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあゆむでは季節の行事や誕生日会などを大切にしています。年に1度の温泉旅行は利用者様、家族様、職員みんなで温泉に入り宴会なども楽しみにされています。また今年は家族様と一緒に作るあゆむを目標に病院受診や買物、散歩などを家族様にも行って頂き利用者様と家族様とが顔を合わせコミュニケーションとれる機会を増やしました。保育園との交流、園児があゆむに来てお互い交流しています。利用者様が笑顔で生活していただくことに力を入れています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の身体状況が重度化してもその人らしく安全に暮らせる方法を考えながら職員間で積極的に意見や提案を出し合い過ごしやすい生活環境を整えています。近隣に商店街や商業施設のある恵まれ立地条件を活かして日々利用者と一緒に買い物に出かけたり、ふれあいサロンなどの地域行事への参加の他、希望を聞きながら気軽に外出する機会を多く作っています。また併設している保育園の園児とは誕生日会などの行事を合同で行ったり、日常的にも行き来し交流を楽しんでもらっています。開設当初から勤務する職員も多く利用者との馴染みの関係を築きながら利用者と共に家事を行い、一人ひとりがその人らしく笑顔で暮らせるよう取り組んでいます。隣接する神社の方や近隣の方などホームへの理解者も増え利用者が交流できる機会が広がっています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1人1人が笑顔で1つの輪になるようにというホーム独自の理念を作りスタッフ間で共有している	法人理念を基に笑顔やコミュニケーションの大切さなどを盛り込んだ独自の理念を作成しています。人事異動など新たに勤務する職員には理念に込められた思いを伝えたり、毎月のミーティングの中でも理念に触れ意識づけをしています。また利用者や職員に笑顔が少なくなったと感じた時などは改めて理念に立ち戻っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	室町の自治会の方や民生委員の方呉服神社の方より地域のイベントに声を掛けて頂き参加している。挨拶も積極的に行っている。自治会に入り地域との交流を増やしている	地域には祭りなどの催しも多く隣接する神社の子ども神輿の見学や祭りの出店で買い物をしたり、盆踊りや高齢者が集うふれあいサロンなどに積極的に参加し交流しています。また歌などのボランティアの来訪や併設している保育園の園児とは誕生会などの合同行事も行い日常的に交流を持っています。散歩や買い物など日々地域に出かけており地域に溶け込んだ交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々、電話での問い合わせ、見学があった場合その都度スタッフが受付、相談、内容によってアドバイスをしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回実施。意見交換、アドバイス、イベント報告、地域の方々との関わりを大事にしている。	会議は家族代表や近隣の神社神主、民生委員、市職員等の参加の下隔月に開催し、ホームの現状や行事等の報告を行い意見交換しています。地域の方の介護相談を受ける事を伝えたり、ホームの緊急時を含めて地域全体の協力体制作りについても話し合う等、ホームの理解が深まる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談やアドバイス、書類の手続きなど質の向上に取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議への参加を得ておりホームの実状を把握してもらっています。手続きなどの分からない事があれば気軽に相談したり、役所を訪問した際には声をかけてもらう事も多く連携を図り協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のシャッターはロックがかかる可能性がある為閉めていない。必要な場合に関しては家族様の了解を得て実施するようにしている。2階入り口に関してはご家族様の希望もあり危険防止の為施錠している。身体拘束の際は家族様に説明している	入職時にはマンツーマンで指導する中で身体拘束についても具体的に伝えていきます。言葉による制止についても伝え、不適切な言葉かけが見られた際にはその都度注意をしています。出入り口は施錠していますが出かけた方には拘束感の無いよう付き添ったり、日常的に散歩や買い物など外出の機会を多く作っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングの、社内研修等で意識統一を虐待防止に努めている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修としてはほとんど参加していない。今後積極的に取り組み、以前グループホームの会で専門の方に来ていただいた事もある為、事例検討やグループホームの会を利用し研修として学ぶ機会を増やしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1時間～1時間30分時間をいただき契約を行っている。各項目ごとに時間を設け、不明な点は説明、質問の時間を作っている。それでも不明な点があった場合は資料を送ったり、電話対応もしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時に意見、質問、利用者様の現状を話させて頂いている。発言しにくい方の対応として2階入り口に意見箱の設置をし対応している。積極的にコミュニケーションをとるようにし電話やメールなどで連絡を取るようになっている	家族の来訪時にはコミュニケーションを図り意見を聞いたり、電話や書面、メール等を家族に合わせて活用し、意見や要望が無いかを聞いています。家族からは個別の要望も多く出されており、納得が得られるよう個々に対応したり、家事や散歩、買い物などの意見については他の利用者についても外出の機会を増やせるよう検討するなどサービスの向上に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務中の合間をみて声を掛けるようにしている。そこで出た意見はミーティングで議題にあげたり、スタッフから話があった場合は話を聞く時間を作りサービスに活かし現場に反映するようにしている	職員の意見は日々の業務の中や毎月のミーティングなどで聞いたり、各職員には献立やイベントなどの担当を任せ、担当者が中心に考え実施するようにしています。意見の内容によってはミーティングで検討し、シフトの変更や業務改善に繋げています。また管理者は日頃から職員に声をかけ意見を出しやすい雰囲気を作ったり、社長の来訪もあり現場の声を聞いてもらっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが働きやすい環境を作りスタッフ同士が刺激し合い、お互いがフォローし向上心をもって働ける環境づくりを目指している。残業等も意識するようにしている。勤務時間内で終了出来るようにタイムテーブルの整備もその都度行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内、社外研修を社員中心で参加しミーティングや現場で伝えている。1人1人のレベルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3ヶ月に1回グループホームの会で管理者、ケアマネージャー、リーダーが集まる機会があり意見交換、勉強会、研修、日ごろの悩みなど話す場を設けている。各担当者ごとに分かれて対応している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をじっくりとかけコミュニケーションをとるようにしている。本人様の要望などに耳を傾け少しでも安心出来るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話対応、来所時、その時の家族様に合わせ時間を調節し訪問し家族様からの要望に耳を傾け少しでも安心出来る形をとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様にとって何が必要か？大事なのか？職員、家族様、本人様も入り話しあう機会を設けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の延長で家庭的という事を意識している。1つの家族としてお互いが支え合う関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と本人様だけではなく本人様と家族様の絆を大切に家族様にも協力していただくことを増やしていっている。外食、外出、誕生日、手紙など家族様、利用者様、職員が共に支えあう関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容院や商店街)や店に行ったりお友達や知り合いの方の訪問があったあ場合の時間を大切にしている。	近隣からの入居も多く散歩時や地域の商店街で日々買い物をしており、知人に出会う機会も多くあります。馴染みの美容室へ通えるよう送迎を支援したり、地域の集まりやふれあいサロンなどに積極的に出かけています。また友人や知人が会いに来られた際には居室に椅子などを用意しゆっくり過ごせるよう配慮し、一緒に外出する方もいます。また職員が少しの支援をすることで年賀状を書いて出せる方もおり、これまでの関係継続を大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で洗濯物を畳んだり、洗い物をしたり、談話したりお互いが支え合い生活している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても関係性を大切にし必要に応じて相談や情報提供をし、関係が途切れないようにしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度カンファレンスし家族様からの聞き取り、表情等の気づきを大切に、職員が情報を出し合って本人様の思いや意向の把握に努めている	入居時には自宅などを訪問し本人や家族から希望や生活の様子などを聞いたり、利用していた事業所などからも情報をもらい思いの把握に努めています。日々の関わりの中で本人の表情や職員の観察から得た情報などは記録し、カンファレンスで思いについて検討したり、家族とも話し合い意向が把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様の来所時、入居前、入居時に出来る限り情報を収集しスタッフ間で共有する形を取っている。必要に応じて以前のサービスや居宅などでの様子など事業所への聞き取りなども行う		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフがその都度アセスメント、カンファレンスし現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様、スタッフ間で担当者会議の実施、医師や看護師、必要に応じて関係者の方の意見も取り入れ現状に合ったケアプランを作成している	介護計画はサービス担当者会議を開き、本人や家族の意向に添った暮らしとなるよう検討し作成しています。個人記録には短期目標が記載され、日々計画の実施状況を確認しています。毎月職員の意見や日々の記録などを基にモニタリングを行い3ヶ月毎に再アセスメントを実施し見直しています。家族の意向は面会時やメールで事前に聞いたり、計画書を確認してもらう時にも意見がないかを聞いています。必要に応じて医師の指示を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、申し送りノート、利用者様の変更、病院の記録等を作成し情報の共有、工夫実践や介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全て事業所側だけで行わず家族様に依頼したり、決まったサービスだけではなくその時々合わせた柔軟なサービスを行っている		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源が豊富にある為豊かな暮らしを楽しむのに外出などを増やし充実した生活をしていただくようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望がある場合は入居前からのかかりつけ医の対応もしている。本人様や家族様から受診の希望があった場合は通院や先生に相談し対応している	入居時に希望のかかりつけ医を継続できる事や協力医についても案内し決めてもらっています。かかりつけ医を継続する方は往診を受けたり家族と共に受診し、状況により職員が付き添っています。協力医は2週間に1度の往診の他、24時間相談する事ができ、指示をもらったり随時の往診にも対応してもらっています。受診や往診の結果は家族と口頭でやり取りを行い、場合によっては医師と直接話してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制の在宅医療の医師や看護師と連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が病院へ行き医師、看護師、ご家族様とカンファレンスの場を持って頂き情報交換を行うようにしている。又電話などでも連絡し合っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に話し合いの場を持っている。状態が変化する中で協力医療機関の方から1ヶ月に1回情報を家族様、事業所に送って頂いている。緊急時に関しても説明しており必要時家族様、医師、管理者、ケアマネージャーでカンファレンスの場を持っている	入居時に現状では看取りの支援を行っていない事を伝えていますが、できるだけホームで暮らせるよう支援していますが、状態が変化し食事が摂れなくなったり、医療が必要となりホームで対応が難しくなった場合は医師から家族へ状況の説明が行われ、家族を交え個々の状況に合わせて方針を相談しながら療養型などの施設や病院などに繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた時、緊急時の対応に関してはその都度話している。社内研修としてはまだまだ不十分です。期間が開いてしまうと実際の緊急時に焦ってしまいスムーズに動きがとれない。定期的を実施していく必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の協力体制は地域の代表の方から地域の方に話して頂いている。避難所なども事前に運営推進会議などでお知らせしていただいている。避難訓練を保育園と合同で行ったり、小学校の方で地域の消防訓練があると職員、利用者様参加させて頂くようにしている	年に2回いづれも日中を想定した避難訓練を1度は併設の保育園と合同で実施し、通報や初期消火、避難誘導などを行っています。地域で行われる消防訓練には利用者と共に参加し、避難に際してのアドバイスを得たり、災害時には隣接する神社や近隣住民の協力が得られるよう働きかけています。夜間を想定した訓練は行われていない状況です。	職員体制の少ない夜間帯を想定した避難誘導の方法を訓練に取り入れてはいたががでしょうか。

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩という事を基本とし不適切な言葉が出た時は職員同士注意し合っている	入職時には利用者は人生の先輩であることを伝え、目線を合わせ敬語や丁寧語を基本として対応するよう伝えています。信頼関係ができてきても馴れ合いや言葉遣いが乱れないよう留意し、不適切な対応があればその都度注意したり、ミーティングで話し合うこともあります。また排泄介助の際の声かけに配慮したり、入浴の支援では希望があれば同姓介助を行うよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望、選択、自己決定出来るように声掛けに工夫し、言葉で伝えられなかったり、気を使われている所もある為気づきがあったスタッフは声掛けし積極的に対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人にあった対応が出来ていない所もあるがその方にあった対応をし時間を作り出来る限り希望に沿った支援が出来るようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの場所へカットへ行ったり化粧なども利用者様の了解を得てからスタッフが1部介助し対応している。服を一緒に買いに行ったりもする		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物、食事作り、片付けなどその方1人1人の能力に合わせして頂いている。利用者様に献立を決めていただいたり最初から最後まで皆でするようにしている	利用者の希望を聞きながら1週間ごとに献立を決め、毎日利用者と一緒に買い物に出かけています。下ごしらえや盛り付け、洗い物など利用者のできることを共に行い、職員も食卓に着き談笑しながら楽しい時間となるよう支援しています。その日の希望を聞き外食や喫茶店に出かけたり、タコ焼きやホットケーキなどのおやつ作りを楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量は分かるように毎食、毎時間記録している。水分や食事が摂れない時はゼリーや分割しての食事、食事時間をずらして工夫している。水分は昼の段階で小計をとるようにしている。摂取困難な場合は必要に応じて担当医師に指示を仰ぐ事もある		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。しっかり磨けていないところはスタッフが確認し仕上げ磨きをしている。必要時訪問歯科などでも対応している		

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をきっちりつけトイレ誘導などの時間を工夫し排泄パターンがわかるようにしている。	排泄記録を参考に排せつのリズムを把握したり、尿意のサインなどを見ながら個々のタイミングを見極めトイレで排泄ができるよう支援しています。利用者の状態に合わせた排泄用品についてカンファレンスで検討し、できるだけ布の下着で過ごせるよう支援しています。失敗が減り使用していた排泄用品が不要になり、布の下着に改善した方もおり自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事、適度な運動や、散歩など工夫して対応している。便の薬の調節、利用者様の訴えや腹部のはりなどその都度状況に応じて医師に相談している。食物繊維のものなど工夫して対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を一応決めているがその時の利用者様の状態に合わせて対応している。入浴日以外を希望された時汗をかかれた時本人様の訴えなどその都度対応している	入居時には入浴の習慣や希望の回数などを聞きできる限り希望に沿えるよう支援しています。入浴は主に午前中に週3回を目安に利用者様の体調などを見ながら声をかけ入ってもらっています。季節のしょうぶ湯や入浴剤を使用し香りを楽しんでもらったり、希望があれば銭湯と一緒に出かけしています。強い入浴拒否の方はなく、声掛けの工夫やタイミングを変えることで入浴してもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて昼寝をしていただいたり、ベッドで足をのばしていただいたりしている。利用者様が安心して気持ちよく休んで頂けるように布団や冷暖房などで調節している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をまとめいつでも確認出来るようにしている。服薬時には日付、名前等を読み上げ誤薬のないようにしている。飲み方に変更があった場合は口頭と申し送りの2重で行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味・生活歴・あゆむに来られてからの様子、気づきなどその方その方にあっただけの楽しみを見つけ過ぎて頂く様に支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出、買物など『今したい事、やりたいこと』利用者様の訴えを出来る限りその場、その日に対応できるような形を取っている。家族様と外食・外出・美容院へ出かけたりにしている	天気の良い日は近くの川沿いや近隣の神社へ散歩に出かけたり、毎日利用者と一緒に商店街等に買い物に出かけています。季節毎に初詣や花見、年に1度は家族にも声をかけ温泉旅行に出かけたり、法人合同の行事や祭りなど地域行事にも出かけています。また行きたい場所を聞きながら出かける個別の外出にも力を入れています。気軽に外に出かける機会も多く作り外出を楽しんでもらっています。	

グループホームあゆむ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様からお金を預かりスタッフが金庫で管理している。家族様と本人様の希望により個人で持っておられる方もいる。喫茶店や服などの買物時に使ってご自分で支払いをされる方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様にに応じて電話の時間帯を考えたり、メール等でお伝えしている。電話があった場合は本人様にかわり電話で話をしたりもする。希望があった場合は手紙やはがきを購入し家族様に書いて頂く様にもしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理。混乱するような場所の移動、物の設置は避け本人様が生活しやすいように整理整頓を本人様としたりして過ごしやすい環境を整えている。	リビングは季節に合わせて祭りの飾りつけなどを行ったり、テーブルの位置や座る場所は心地よく過ごせるよう利用者間の関係を見ながら決めています。また椅子の背もたれに座布団を当て座り心地良くしたり、行事の写真などが飾られた廊下はソファや椅子を置き、静かに過ごしたい方や仲の良い人同士が過ごされています。キッチンと食卓が近く、調理の音や匂いを身近に感じられる家庭的な空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりできる空間づくり、椅子を設置したり居室で過ごしていただいたり、リビングで過ごして頂いても声を掛け合って1人の時、皆で過ごす時等工夫して過ごして頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様・本人様と相談し馴染みの物を置いたり、本人様が使いやすい位置に置いたりし居心地よく過ごして頂く様にしている	入居時には馴染みの物や使い慣れた物を持参してもらおうよう伝えています。利用者はタンスやテーブル、座り慣れた椅子などを持ち込んだり、大切な仏壇や自身で作った作品などを持参する方もいます。身体状況の変化に合わせて緩衝材や手すりを取り付けたり、自宅に必要な物を取りに行くこともあり、安全に安心して過ごせるよう環境を整えています。生活習慣に合わせて床に布団を敷いて休む方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様1人1人のADLを把握し力を引き出し出来るだけ自立して生活が送れるように支援している。利用者様のできること、できないことを判断し利用者様にあった対応をしている		